

▼フルメジン糖衣錠 [内]・▼筋注 [注]

【重要度】 【一般製剤名】フルフェナジンマレイン酸塩 fluphenazine maleate 【分類】精神神経安定剤 [フェノチアジン]

【単位】▼0.25mg・▼0.5mg・▼1mg/錠, ▼25mg/A [1mL]

【常用量】■1~10mg/日■筋注：1回12.5mg~75mgを4週間隔で筋注 [初回は可能な限り少量, 50mgを超えない]

【用法】■分割投与■筋注

【透析患者への投与方法】減量の必要なし (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】減量の必要なし (5)

【特徴】クロロプロマジン誘導体の抗精神病薬。統合失調症に適用される。初回通過効果を受けて吸収率が低く、血中濃度の個人差も大きい。

【主な副作用・毒性】悪性症候群、無顆粒球症、白血球減少、麻痺性イレウス、SIADH、遅発性ジスキネジア、眼障害、肺塞栓症、深部静脈血栓症

【F】初回通過効果を受ける (Midha KK, et al: J Psychiatry Neurosci 19: 254-64, 1994) 2.7% (Koytchev R, et al: Eur J Clin Pharmacol 51: 183-7, 1996)

【tmax】0.5hr (1)

【代謝】肝代謝 [イヌ] (1) 代謝物の7-ヒドロキシ体とスルホキシド体にはドパミン受容体遮断作用がある (1) 血中には抱合体が未変化体の3~4倍優位に存在 (Midha KK, et al: Psychopharmacology (Berl) 96: 206-11, 1988)

【排泄】胆汁排泄され腸肝循環する (Midha KK, et al: Psychopharmacology (Berl) 96: 206-11, 1988)

【CL】資料なし (1) 喫煙によるCL上昇 (Desai HD, et al: CNS Drugs 15: 469-94, 2001)

【t1/2】14.7hr (1) 16.4±13.3hr (Dysken MW, et al: Psychopharmacology (Berl) 73: 205-10, 1981) 腸肝循環のため計算できないことがある (Midha KK, et al: Psychopharmacology (Berl) 96: 206-11, 1988)

【蛋白結合率】資料なし (1)

【Vd】資料なし (1) P-gpが細胞内移行を制限している (El Ela AA, et al: J Pharm Pharmacol 56: 967-975, 2004)

【MW】669.68

【透析性】資料なし (1)

【O/W 係数】資料なし (1) 【TDM のポイント】血中濃度データが治療に有用である可能性がある (Dahl SG: Psychopharmacol Ser 5: 34-46, 1988) 血中濃度と効果には関連が見られない [持続性製剤] (Gitlin MJ, et al: Psychopharmacology (Berl) 148: 350-4, 2000) TDMの有用性を認めない [持続性製剤] (Marder SR, et al: Schizophr Res 53: 25-30, 2002) 【薬物動態】2相性に消失 (Dencker SJ, et al: Psychopharmacology (Berl) 94: 237-41, 1988) 血中濃度と投与量・性別・年齢には相関がない [持続性製剤] (Miller RS, et al: J Clin Pharm Ther 20: 55-62, 1995)

【更新日】20180414

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。